



謎の超笑力をもつ大魔王が、あなたに贈る不思議なムダ話

発行：トラベル・ミトラ・ジャパン

ぼん子画

(530-0041) 大阪市北区天神橋 1-18-25 第3 マツイ・ビル 201 TEL : 06-6354-3011

お笑いエッセイのメール発信をご希望の方は、ご連絡下さい。(E-mail : daimao@travelmitra.jp)

## 「おっさんたちの旅」 鎌倉④

オメダBは、元講師である。教員割引があるというので私学共済事業団の「あじさい荘」に泊まった。海は見えるが、道路に面しているので騒音が若干気になった。コロナ災禍で宿泊客は二組しかいなかった。

翌朝二人で海岸を散歩した。同じ海岸を恩師哲学者Sもよく散歩していた、と聞いた。西田幾多郎が散策した京都の「哲学の道」のようなものである。

歩いて考える。ゆっくり歩くと何かしらヒントが浮かんでくる。

極楽寺の次は稲村ヶ崎駅である。そこに西田幾多郎遺宅がある。哲学者Sは、時に西田宅を訪れ哲学談義をしたのかもしれない。

グズ六Bがやってきて、鎌倉観光が始まった。手には『鎌倉の寺社 122 を歩く』（山折哲雄監修、槇野修著）をもっていた。

御霊神社、鎌倉大仏、光則寺、長谷寺、収玄寺、長谷寺駅に至って、江ノ電で鎌倉駅に向かった。民泊にチック・インして休息。

最初に鎌倉大仏に行きたいと言ったのは、わが輩である。

大仏さまを拝するのは、中学の修学旅行以来である。わが輩の残像と違った。大仏の印象はそのままだが、もっと広い境内（高德院）であったという印象が残っていた。

大仏は観光モノになってしまったが、タイの人が跪いて礼拝しているのをみて、大仏も仏さま（阿弥陀如来）だと、あらためて認識した。

余計な提案だが、高德院の僧が一時間毎に10分間だけ読経合掌してみたらどうか。それを見た修学旅行生は「なぜ、あの人は手を合わせているの？」という疑問をもつ。そのことによって、モノとモノでないもの、との区別が養われるだろう。

さて、大仏以外に、もう一つ関心をもっていたものがあった。

スリランカのジャヤワルデネ首相の顕彰碑である。第二次世界大戦後の極東裁判で、敗戦国日本は勝者（ソ連中国米国）から徹底的にたたかれた。日本を擁護したのは、全員無罪を述べたインドのパール判事とスリランカのジャヤワルデネ大統領である。パールの顕彰碑（2005年）は靖国神社にあるが、ジャヤワルデネは高德院（1991年）にある。これらの場所の違いに、何かしら顕彰する側の意図が感じられる。それはさておき、顕彰碑をみてみよう。

[サンフランシスコ対日講和会議 40 周年記念 ジャヤワルデネ前大統領顕彰碑]

日本と日本国民に対する深い理解と慈悲心に基づく愛情を示された大統領を称えて 1991 年に建立されたものである。

ジャヤワルデネは、講和会議のとき次のブッダのことばを引用して語った。

「実にこの世においては、怨（うら）みに報いるに怨みを以（もつ）てしたならば、ついに怨みの息（や）むことがない。怨みをすててこそ息む。これは永遠の真理である」

（『ダンマパダ』5）

この顕彰碑の存在をスリランカの友人から聞いていた。それで、いつか見たいと思っていた。この碑は、日本人の感謝の意というよりも、“スリランカ人の誇り”として在る。

またまた余計な提案だが、修学旅行生はこのことばの意味を味わってほしい。

グズ六 B は、山折哲雄のファンだと述べたが、一度だけ山折の著書を拒否したことがあった。山折が月刊誌『新潮 45』（2018 年 3 月号）に「皇太子殿下、ご退位なさいませ」の文を載せたときであった。

「あれは不敬だよ！」

と右派思想のグズ六 B は大いに憤慨した。

皇室に対して、われわれ庶民が、その存在についてとやかく言うべきではない、とグズ六 B は思った。

鶴岡八幡宮の北側に小さな新宮神社（にいみや、今宮神社）がある。

これは「承久の乱」（1221 年）の敗者たちを祀った社殿である。

源頼朝の死後、鎌倉幕府で内紛がおこった。その混乱に乗じて、後鳥羽上皇たちが、この際不埒な武士をやっつけようと画策した。ところが、天皇派は惨敗し、後鳥羽上皇は隠岐に流され亡くなった。

もの言う者の“不敬”どころか、高貴な天皇を島流しにした時代であった。

ところが、この高貴な者の怨みは深く、それを鎌倉武士は畏怖した。怪異現象がおこると、怨霊によるものだとして、社殿に押し込め、神として祀り鎮魂した。

後鳥羽上皇たちの怨霊を怖れ、「あんたを神さまにしてあげたのだから、われわれを怨んじゃだめ！」というわけである。

それだけではない。頼朝の弟（義経）殺し、頼朝の息子実朝（第三代将軍）は甥の公暁（くぎょう）に殺された話など、山折が言うように、鎌倉は「呪われた都」であった。

このような呪われた都にやってきたのが日蓮であった。呪われた「京の都」ではなく、日蓮はなぜに鎌倉にやってきたのか。

それでは、次号で日蓮の事蹟を巡りながら考えてみよう。